日本共産党あきる野市委員会発行

あきる野民報

発行責任者/松平重幸　TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2009.11.22　No.521　（毎月２回発行）

――旧秋川高校周辺地域の土地利用計画――

日本共産党前議員
影山 保氏
が指摘 ❷

大規模開発でなく 福祉・医療・教育の拠点に

都が求めて来たのは 秋川高校跡地利用だけ なぜ 大規模開発計画に？？？？

市が発表している土地利用構想

都立秋川高校は平成十三年に閉校になった後、平成十九年三月まで三宅小・中・高校の臨時分校として活用されました。

その後東京都がアスリート養成施設を計画しましたが断念。跡地の土地利用は、あきる野市の意向を受け止めながら新たな有効活用を検討する旨を東京都が表明していました。

あきる野市は検討委員会をつくり、秋川高校跡地だけでなく、跡地を中心に七十七・七ヘクタールもの大開発計画を立てました。

企業誘致のため様々な優遇措置計画

計画では近年の景気低迷により、企業の設備投資が抑制される傾向があるとして、強力な誘致活動が不可欠としています。

例えば法人市民税・固定資産税の十年間の減免、上下水道代金の割引など、かなり思い切った措置を講じる必要があるとし、誘致活動のために専任の職員を配置するなどです。

21億円の血税使って富士通誘致した市長

臼井市長は秋川市長の時、富士通誘致のために様々な優遇措置を講じたことが明らかです。造成費、道路工事費、周辺植樹費、上下水道工事費、浸透貯留槽設置費、など総額二十一億円にもなります。

しかし富士通からの税収は、当初と大きな見込み違いで、法人税などは企業の収益で大きく変わり不透明で、ゼロ収入の年もある始末です。

開発優先の失敗を繰り返すな

臼井市長は自民党の市長として、開発優先を繰り返し、失敗に終っています。

あきる野市の財政難の最大の原因は、土地開発公社の作った借金であり、その責任者は臼井市長です。

市民に陳謝することなく、また、責任も取らず見通しのない大開発で、新たな借金を作ることは許されません。

また失敗を繰り返さないため、産業系の企業誘致は中止すべきです。

跡地裏口から、「西多摩養育センター」「あきる野学園養護学校」をのぞむ通り。

地方自治体の任務は、住民の安全を守り、福祉、教育の充実です

この周辺には、公立阿伎留医療センター・都立あきる野学園養護学校・西多摩養育支援センター・西中学校・日の出福祉園等があります。

平成十二年に策定された「あきる野市都市計画マスタープラン」でも、この地域を教育・医療施設用地と位置づけています。

ここは産業系企業の誘致ではなく、この計画通り、福祉・医療・教育の拠点地域にすべきです。これからの社会では、そうした施設の需要が多くなり、雇用を生み出す可能性も十分あります。これこそ地方自治体の仕事ではないでしょうか。（おわり）

おばらしき こどもぐらし

たばた　あずみ

わが家では風呂掃除はむすこの、雨戸の開け閉めはむすめのお仕事（ちびは見習い中）。お仕事を頼むにあたって、わたしは考えました。「お仕事と決めたからには任せる。やらなかったらあきらめるまで！」

言うは易し行うは難き。「やってね」「やったの？」「ちゃんとやって！」言い出したら止まらず、言われるほどに嫌になり…。

これじゃだめだ！と再宣言。「おまかせしますからね、よろしく！」はたして、雨戸は登校直前にあわてて開けられ、お風呂は入る前にあわてて洗われ…。

理想的じゃないけど、まぁなんとかやれてます。家庭ってそんなものかもしれません。

（09.11.22）

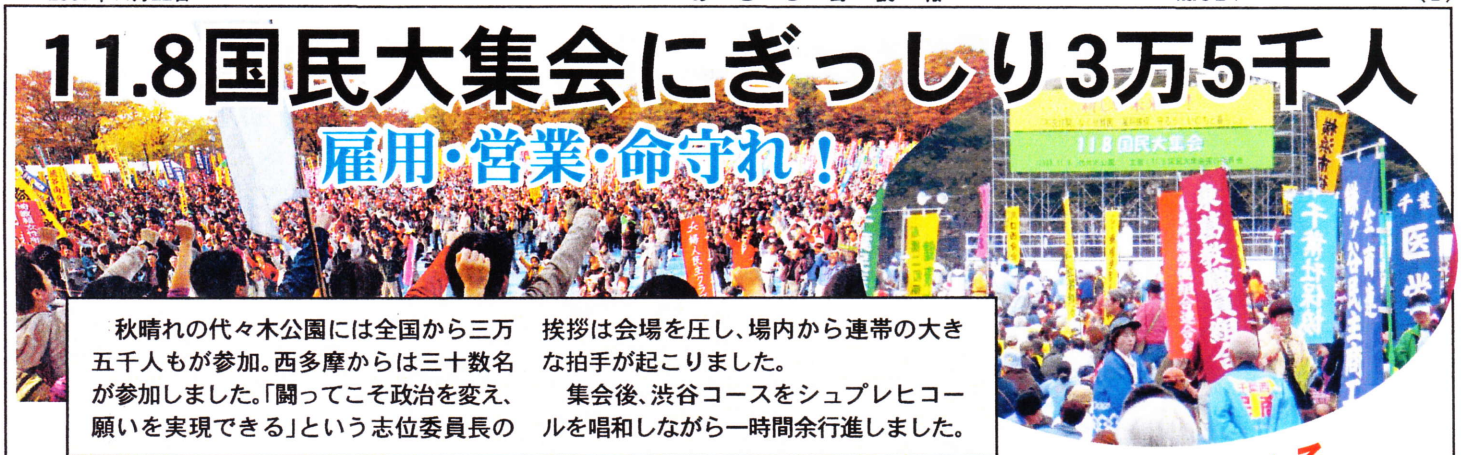
連絡先は☎550-6674

野良望

いま太宰治ブームだ。私も若いとき、好きな読書のうち、太宰治の著作は多くを占めていた▼太宰が直接私に話しかけてくるような文筆、それが私自身の弱い点と共通するような語りかけ、誰しもこれには引きつけられる。当時、多くの若者が太宰治ファンになったのは肯ける▼津軽の大金持ちの家に育ち、貧者に対し罪の意識を持ち、一時、日本共産党に物心両面の協力をしたが長く続かなかった▼戦中、多くの作家が戦争に協力させられる状況のなか、太宰は協力せず、独自に「走れメロス」「新釈日本諸国噺」「お伽草紙」などの傑作を残したと言われていた。その太宰が戦後間もない頃、愛してもいないと思われる女性と、三鷹の玉川上水に身を投じた▼先日「赤旗」文化欄に登場した太宰の子、太田治子によって新事実が知らされた。「太宰は戦中、天皇賛美の文章を残していた。彼の自死の要因の一つにあるのでは」「気の小さい欠点だらけの父だから」と▼私は長年の疑問が氷解した。しんぶん「赤旗」は凄い新聞。（松）

11.8国民大集会にぎっしり3万5千人

雇用・営業・命守れ！



秋晴れの代々木公園には全国から三万五千人もが参加。西多摩からは三十数名が参加しました。「闘ってこそ政治を変え、願いを実現できる」という志位委員長の挨拶は会場を圧し、場内から連帯の大きな拍手が起こりました。

集会後、渋谷コースをシュプレヒコールを唱和しながら一時間余行進しました。

毎年行われている全都自治体要請行動があきる野市役所で10月21日

社会保障推進協議会や年金者組合が中心になって十六年前から行っており今回は、十七年目の要請行動です。今年は、全都の高齢者要請申入書とあきる野市独自の要請書を事前に提出。市側と話し合いました。

要請側は社保協、健康友の会、新婦人、原水協、循環バスを走らせる会、年金者組合の各団体と山根議員の14名。市側の出席は、12名。

市側の回答は、「るのバスの増発は財政難とバス更新を控え、検討委の結論を待ちたい」というもの。

新婦人からヒブワクチン接種の補助、学童保育所の増設や待機児の解決、市民憲章の精神で公民館・体育館使用料の受益者負担の発想から脱却して欲しいと要望。原水協から昨年六月の原水禁総会決議による国連へ提出する署名を市長は断った事に抗議。

あきる野市の現実を痛感しました。

（年金者組合西多摩支部　西川昇）

絵手紙／瀬川和子さん・牛沼在住

川柳

やっぱりね頭上がらぬアメリカに　蕎麦湯

得手に帆が綻びだした民主船　蕎麦湯

喜寿でインターネットの妙味知る　松籟坊

初メール着いた喜び君知るや　松籟坊

五日市支部と後援会が「みんなで話す会」を開きます

歴史探訪　第101回　地名考・余談②

五日市（檜原街道）

地名考に関連し「新編武蔵風土記稿」や「秋川市史」、その他国語辞典などを参考にしていますが、「秋川市史」の中に「萩原家文書では」という古文書の引用が度々でてきます。私は「萩原家文書」の所在地も知らず如何なる家系かも分からずに参考にしていましたが、五日市郷土館で所在を確かめることができました。所在地は五日市の上町バス停の近くで、今でも子孫の方がいらっしゃる様子です。

江戸期・延享年間（一七四〇）に薬種屋を創業したとされていますが、古文書の一番古い史料に文永年間（一二六〇前後）の戸口調査一件がありますので、薬種屋創業より五〇〇年も前の鎌倉期から続いている家系なのか、又は後代になって古文書を史料として手に入れたものと推測しますが、確かではありません。

旗本中山氏が残した御料地に在住の有力百姓六軒が所属したといいます。一般に御料というと皇族の直轄を意味しますが、この場合は幕府直轄と解釈しています。この百姓六軒が、後に代々名主や年寄を務めてきたといいます。この内の一軒が萩原家であり、残されている古文書が郷土史にとって貴重な文献になっているわけです。古文書の総数は一〇七三点という膨大な数を残しています。

（続く）　草花・木崎秀治

俳句

（季語＝「釣瓶落し」）秋の落日は、井戸に釣瓶が落ちてゆくようだという例えから生まれた季語。季語としては新しく、山本健吉が定着させたと云われています。

山登る渇きしのどに露の玉　（るり子）

露の世の指ほど小さき地蔵尊　（つや）

露の世や母の教へを子に伝へ　（淑子）

ランドセル揺らして蹴りぬ柿落葉　（勝代）

夫帰るつるべ落しの夕支度　（和恵）

老いてなほ田に生きかぼちゃ売つてをり　（照代）

まいまいず井戸守る里の秋気満つ　（かほる）

竹の葉の先に小さき露の玉　（静子）

荒海に薄き冬日のきらめきぬ　（秀治）